

北から南から 集うフレッシュマン 828名



発行所 日本工業大学
広報課
埼玉県南埼玉郡宮代町
郵便番号 345
電話 04803(4) 4111

この時期のキャンパスは、去って行く者、入って来る者、まるで交代劇が行われているかのようににぎわいをみせた。去る三月二十五日、卒業式が行われ、六九二名が感涙あふれと裏社会へと巣立って行った。また、四月一日には入学式が午前十時三十分から本学体育館で行われた。新調した背広に身を固め、初らしい顔つきで校門をくぐりぬける姿が印象的であった。



真剣なまなざしで学長の式辞に耳を傾けるフレッシュマン



さっそくクラブ勧誘の手が...



後援会長から記念品を受ける
新入生代表

55年度 出身校別 入学人数

- 北海道 小樽工(2) 帯広工(1) 釧路工(1) 苫小牧工(1) 函館工(1) 紋別南(1) 夕張工(1) 留萌工(1) 稚内工(1) 青森県 青森工(7) 五所川原工(7) 十和田工(3) 弘前工(2) むつ工(1) 光星学院野辺地工(2) 岩手県 大船渡工(4) 釜石工(1)
- 東北 黒沢尻工(1) 水沢工(1) 宮古工(2) 盛岡工(7) 宮城県 石巻工(1) 鶴沢工(1) 白石工(1) 仙台工(1) 秋田県 秋田工(1) 大館工(1) 小坂工(1) 能代工(4) 由利工(2) 横手工(1) 米内沢工(1) 山形県 酒田工(1) 新庄工(1) 鶴岡工(2) 東根工(1) 山形工(1) 米沢工(2) 福島県 小高工(1) 喜多方工(2) 郡山北工(2) 平工(5) 勿来工(6) 福島(2) 白河実業(1) 聖光学院(1) 茨城県 勝田工(2) 下館工(12) 総和工(3) 玉造工(1) 土浦工(8) 日立工(1) 水戸工(6) 栃木県 足利工(3) 足尾(1) 今市工(3) 宇都宮工(8) 栃木工(9) 那須工(1) 真岡工(1) 足利学院(1) 群馬県 作新学院(1) 群馬馬場伊勢崎工(10) 太田工(5) 桐生工(7) 高崎工(4) 藤岡工(8) 前橋工(2) 渋川市立工(5) 長野県 長野原(1) 千葉県 市川工(14) 京葉工(6) 清水(3) 館山(1) 千葉工(1) 東総工(2) 千葉商(9) 千葉県 筑波大附属坂戸(1) 大宮工(14) 春日部工(13) 行田工(7) 熊谷工(13) 秩父農工(2) 久喜工(9) 越生工(1) 狭山工(11) 玉川工(3) 野野農工(1) 川口工(7) 川越工(10) 小松原(1) 埼玉栄(1) 上尾東(1) 所沢北(1) 東京都 足立工(4) 工芸(1) 荒川工(3) 王子工(2) 葛西工(8) 島山工(1) 北豊島工(1) 蔵前工(4) 砧工(1) 江東工(1) 杉並工(1) 墨田工(3) 世田谷工(1) 田無工(1) 練馬工(1) 港工(3) 八王子工(1) 本所工(7) 向島工(3) 中野工(2) 小石川工(2) 小金井工(2) 関東第一(4) 昭和第二(4) 東京実(1) 豊島実(7) 安田学園(7) 本郷(4) 大森工(2) 目黒(3) 八王子実践(1) 東京電機大(1) 足立(1) 攻玉社(1) 保善(1) 杉並(1) 日大第一(1) 神奈川県 神奈川工(8) 相模台工(1) 横須賀市立工(2) 三浦(1) 磯子工(1) 鶴見工(1) 山梨県 機山工(6) 甲府工(4) 北富士工(2) 峡南(2) 韮崎工(5) 新潟県 燕工(2) 柏崎工(1) 三条工(1) 新発田商工(3) 高田工(2) 直江津工(5) 長岡工(2) 新潟工(2) 新津工(3) 新潟東工(1) 長野県 池田工(2) 飯田長姫(2) 上田千曲(8) 岩村田(6) 白田(2) 岡谷工(2) 駒ヶ根工(1) 木曾山林(1) 長野工(1) 中野実業(2) 松本工(3) 箕輪工(1) 信州工(2) 富山県 富山工(4) 魚津工(1) 大沢野工(1) 二上工(1) 石川県 七尾工(1) 金沢市立工(1) 福井県 敦賀工(7) 静岡県 静岡工(3) 島田工(2) 清水工(3) 修善寺工(9) 天竜林業(1) 掛川工(1) 沼津工(3) 浜松城北工(4) 静岡工(2) 愛知県 愛知工(1) 一宮工(1) 豊橋工(3) 半田工(1) 岐阜県 岐南工(1) 可児工(2) 京都府 石原(1) 天阪府 芥木工(1) 東淀工(1) 大鉄(1) 太成(2) 兵庫県 竜野実(1) 東播工(2) 豊岡実(2) 西脇工(1) 和歌山県 箕島(1) 鳥取県 境港工(2) 鳥取工(2) 島根県 松江工(2) 江津工(2) 岡山県 岡山工(2) 倉敷工(1) 津山工(4) 水島工(3) 広島県 広島工(1) 三次工(1) 呉港(1) 宮島工(1) 山口県 柳井工(4) 岩国工(1) 徳島県 徳島工(1) 鳴門工(1) 香川県 高松工芸(1) 愛媛県 今治工(1) 吉田工(1) 新田(1) 高知県 安芸工(1) 高知工(2) 高知東工(2) 須崎工(1) 福岡県 九州産業(1) 大分県 大分工(4) 宮崎県 日南工(1) 日向工(1) 長崎県 海星(1) 鹿児島県 大島工(2) 鹿屋工(2) 加治木工(1) 鹿屋工(3) 種子島実業(1) 薩南工(2) 鹿児島電子工(1) 沖縄県 沖縄工(2) 中部工(2) 那覇工(1) 北部工(1) 宮古工(1)

- (二) 新入生への期待(学長 三浦鞞郎) 55年度出身校別入学人数
- (三) 新入生へのメッセージ(新入生諸君、おめでとう) 教養科主任教授 水野 坦、クラブ活動等に積極的に参加を希望する学生部長 竹内厚彦、確固たる目標をもって進め、教務部長 大川昭康
- (四) 全専任教職員一覧
- (五) 太平洋の文化(1) グラムの場合(1) 陽一 講師 第8回ヨーロッパ理工学研修旅行を終えて(和田敏一教授) 研究室では(木村哲三助教授)
- (六) 3.25から 意気揚々の旅立ち

新入生への期待

学長 三浦鞞郎

卒業生を送り出して一週間、入れ替わって八百余名の若々しい諸君を迎えることができたことは、大変うれしい。われわれは諸君の若い力に大きな期待を寄せている。本学は創立十三年を経て、緑の中に偉容を誇る外観とともに、内容もまた充実してきた。諸君が四年間を安心して学べる大学である。大学がここまで発展することができたのは、すでに七千名を越える諸君の先輩の努力によるところが大きい。諸君も負けずに、今日からは諸君のものとなったこの大学を、もっともっと立派なものにして欲しい。

さて、諸君が四年間の学生生活を始めるに当たって、若干の希望を述べておきたい。

第一は欲張りになること。諸君にとって大学は新しい世界である。何もかも諸君には物珍しさに違いない。この新しい世界で、すべてのものに好奇の目を向け、貧欲に、欲張って、できるだけ多くのものを吸収してもらいたい。学問においても、クラブ活動においても、全力を傾けてもらいたい。古来日本人は謙讓を美德としてきた。「失礼ですが」、「申し訳ありませんが」というような日常の言葉によっても分かる通り、遠慮して、控えめにものを言ってきた。人を押しつけて先に出ることはいけないとされてきた。しかし大学では、学問の世界では、遠慮はいらない。人に先んじて、欲張って、できるだけ多くの収穫をあげてほしい。欲張りは、われわれの場合には、誉めるべき美德なのである。

第二に自分の考えを持つこと。何事によらず、自分はどう思うという自分の考えをはっきり持つてもらいたい。皆がそう思っているから、皆がそうしているから、おそろくそれが正しいのだからと考えるのはいけない。誰がなんと考えようと、自分はこう思うというものを持ってもらいたい。

フランスは隣のドイツに較べると、一見ひ弱な国に思われる。ところがどうして、なかなかのしたたか者で、ドイツと並んでヨーロッパの二大強国になっている。それは国民のひとりひとりが、掃除のおばさんに至るまで、しっかりした自分の考えを持っているからだ。この大学の学生も、学生のひとりひとりが自分の考えをもって、きつと立派な大学になるであろう。ことに諸君は大学では研究をする。研究は人真似してはだめである。人の意見は参考にはするが、結局は自分のものを作りあげるのが研究である。諸君もこの四年間に、ぜひ立派な研究者になってもらいたい。

新入生へのメッセージ

羽ばたけ、いま



新入生諸君、おめでとう

教養科主任教授 水野 坦



諸君は普通教育を終えて、これから大学での高等教育を受けられる事になりました。この時

感を感じたいと思います。日本工業大学になったという事は、ただ大学生活が始まったというだけであり、真に慶賀すべき

諸君が身につけなければならない内容は、広く、そして深く、わずかな努力では、これを充分

をよく了解し、それが他の場面でも生きて動くように、自らの能力を高めることが、肝要です。

入学おめでとう。諸君はこれからまさに始まるという新しい生活を前に、希望に燃え

「最初のボタンを掛け損なったら最後のボタンは正しく掛けられない」という言葉があります。

目をなめるものです。この点、始めに当って、充分な自覚を希望するというのが、私の言いたい

生きて、両方が、望ましい効果を生むという事まで、この言葉は意味しているのです。

入学おめでとう。昭和四十二年四月に本学の第一回入学式が

入学おめでとう。諸君はこれからまさに始まるという新しい生活を前に、希望に燃え

「最初のボタンを掛け損なったら最後のボタンは正しく掛けられない」という言葉があります。

目をなめるものです。この点、始めに当って、充分な自覚を希望するというのが、私の言いたい

生きて、両方が、望ましい効果を生むという事まで、この言葉は意味しているのです。

入学おめでとう。昭和四十二年四月に本学の第一回入学式が

とを念頭に置き、輝ける伝統を築きあげるために、大学を構成する一員として、努力していただきたいことを、まず願うわけ

目をなめるものです。この点、始めに当って、充分な自覚を希望するというのが、私の言いたい

生きて、両方が、望ましい効果を生むという事まで、この言葉は意味しているのです。

入学おめでとう。昭和四十二年四月に本学の第一回入学式が

とを念頭に置き、輝ける伝統を築きあげるために、大学を構成する一員として、努力していただきたいことを、まず願うわけ

目をなめるものです。この点、始めに当って、充分な自覚を希望するというのが、私の言いたい

生きて、両方が、望ましい効果を生むという事まで、この言葉は意味しているのです。

クラブ活動等に積極的に参加を

学生部長 竹内 淳彦



入学おめでとう。諸君はこれからまさに始まるという新しい生活を前に、希望に燃え

目をなめるものです。この点、始めに当って、充分な自覚を希望するというのが、私の言いたい

生きて、両方が、望ましい効果を生むという事まで、この言葉は意味しているのです。

入学おめでとう。昭和四十二年四月に本学の第一回入学式が

とを念頭に置き、輝ける伝統を築きあげるために、大学を構成する一員として、努力していただきたいことを、まず願うわけ

目をなめるものです。この点、始めに当って、充分な自覚を希望するというのが、私の言いたい

入学おめでとう。諸君はこれからまさに始まるという新しい生活を前に、希望に燃え

目をなめるものです。この点、始めに当って、充分な自覚を希望するというのが、私の言いたい

生きて、両方が、望ましい効果を生むという事まで、この言葉は意味しているのです。

入学おめでとう。昭和四十二年四月に本学の第一回入学式が

とを念頭に置き、輝ける伝統を築きあげるために、大学を構成する一員として、努力していただきたいことを、まず願うわけ

目をなめるものです。この点、始めに当って、充分な自覚を希望するというのが、私の言いたい

全専任教職員一覽

今年新たに八二八名の新生が、日本工業大学ファミリに
加わり、いよいよファミリの輪も広がりを見せてきた。ここに
本学の全専任教職員を紹介するが、新入生諸君には一日も早く
大学生活になじみ、積極的に教職員と接することを望みます。

学長・学内理事

三浦朝郎学長(理事)



仲嶋正之理事(総務部長)



大川陽康理事
(教務部長 機械工学科教授)



竹内淳彦理事
(学生部長 教養科教授)



橋爪浅治教授(解析学など
担当)



矢島幸雄教授(物理学など
担当)



齊藤 享教授(解析学など
担当)



三上繁太郎教授(関数論など
担当)



木村哲三助教授(数学持論C
など担当)



西田英郎助教授(統計学など
担当)



鈴木一良助教授(物理学など
担当)



清島達郎助教授(物理学など
担当)



柳下 崇助教授(物理学など
担当)



鈴木康之助教授(化学など
担当 学生部委員)



寺尾 裕講師(解析学など
担当)



新妻 弘講師(数学持論B
など担当 教務委員)



塚林 功講師(物理学など
担当 図書委員)



藤崎雅彦助手



〔外国語〕

吉岡 勝教授(英語担当)



松本 繁教授(仏語担当)



大塚實弘教授(英語担当・
紀要委員)



川副富男助教授(独語担当)



伊藤 隆助教授(英語担当)



熊沢佐夫講師(時事英語など
担当 教務委員)



長谷川嗣彦講師(独語担当)



辻 陽一講師(英会話など担
当 学生部委員)



酒井 誠講師(保健体育な
ど担当 図書委員)



城戸卓男助手



中島克典助手



玉木 保助教(材料力学
工業力学など担当)



横谷真一郎講師(流体の力
学など担当)



柳沢 章講師(機構学など
担当)



(兼担)酒井茂紀講師
(機械工作センター主任)



窪田英毅講師(機械設計製
図Ⅱなど担当)



小倉 勝講師(内燃機関な
ど担当 教務委員)



村川正夫講師(機械力学な
ど担当 学生部委員)



村上尚司助手



伏見恒夫助手



寺島幸雄助手



(兼担)宮沢 肇助手



渡辺高幸助手



佐藤茂夫助手



梅崎栄作助手



有賀幸則助手



寺沢幸雄教育技術員



岡田恒雄教育技術員



神谷八郎教授(回路網論な
ど担当 教育 研究委員)



桑田正信教授(電子素子工
学など担当 紀要委員長)



教養科

〔人文・社会 科学・教職〕

岡本鐘輔教授(法学担当)



竹内淳彦教授(工業地理学
担当 学内理事 学生部長)



土井正志智教授(教育原理
など担当 教育 研究委員)



和田敏一教授(心理学など
担当)



堀内優子助手



〔自然科学〕

水野 坦教授(解析学など担
当 教養科主任教授)



〔保健体育〕

小林 勉助教授
(保健体育など担当 保健体育
センター長 学生部長補佐)



松本 繁教授(仏語担当)



大塚實弘教授(英語担当・
紀要委員)



川副富男助教授(独語担当)



伊藤 隆助教授(英語担当)



熊沢佐夫講師(時事英語など
担当 教務委員)



長谷川嗣彦講師(独語担当)



機械工学科

石崎敏三主任教授(溶接工
学 工業材料Ⅰなど担当)



長田重慶教授(工作機械・機械
加工など担当
機械工作センター長)



大川陽康教授(塑性加工学Ⅰ
など担当 学内理事 教務部長)



町山忠弘教授(制御工学など
担当 紀要委員)



酒井 誠講師(保健体育な
ど担当 図書委員)



城戸卓男助手



中島克典助手



玉木 保助教(材料力学
工業力学など担当)



横谷真一郎講師(流体の力
学など担当)



柳沢 章講師(機構学など
担当)



(兼担)酒井茂紀講師
(機械工作センター主任)



窪田英毅講師(機械設計製
図Ⅱなど担当)



小倉 勝講師(内燃機関な
ど担当 教務委員)



村川正夫講師(機械力学な
ど担当 学生部委員)



電気工学科

大久保勝弘主任教授
(電力変換工学など担当
電気実験センター長)



岡本保雄教授
(電気機械設計法など担当
図書館長)



佐藤茂夫助手



梅崎栄作助手



有賀幸則助手



寺沢幸雄教育技術員



岡田恒雄教育技術員



神谷八郎教授(回路網論な
ど担当 教育 研究委員)



桑田正信教授(電子素子工
学など担当 紀要委員長)



 佐伯正盛講師(放電工学電 気回路Iなど担当・図書委員)	 堀田勝喜講師 (電気材料・電気磁気測定学 など担当・教務委員)	 高橋篤夫助教授(制御工学 電気磁気学Iなど担当)	 廣瀬治男助教授 (電気磁気学I・電子回路I など担当・教務部長補佐)	 中道一郎助教授 (電気回路Iなど担当)	 八田 達教授 (電波工学など担当)	 高橋琢二教授 (制御機器学など担当)
 広瀬洋一助手	 高橋明速助手	 日下部 岱助手	 山口義昭助手	 堀口光敏助手	 (兼任)片山滋友講師 (電気実験センター)	 荻野昌親講師 (電気磁気測定学など担当・ 学生部委員)

 木村蔵司教授 (鉄筋コンクリート構造A など担当)	 宮坂修吉教授 (建築計画Aなど担当・教育 研究委員)	 塩原正典教授 (構造力学Cなど担当)	 三吉正光主任教授 (建築計画Bなど担当)	 谷澤 茂助手	 丹羽次郎助手
 渡辺勝彦助教授(日本建築史 建築製図など担当・教務委員)	 榎井武一助教授 (環境工学など担当)	 難波恒夫助教授 (鉄骨構造・構造力学Aなど 担当・図書部長補佐)	 高橋 恒助教授 (建築構法など担当)	 沖口 侃技術職員	 青木 収教育技術員
 福田成一助手	 高橋雅充助手	 岩隈利輝助手	 川井睦子助手	 伊藤庸一講師 (建築設計製図A・建築図学 など担当・紀要委員)	 桑原文夫助教授 (構造力学Bなど担当・学生 部長補佐)

建築学科

 杉本安次郎教授(表面工学な ど担当・学生部委員)	 齋藤次郎教授 (建築構造Iなど担当)	 横内龍雄主任教授 (生産管理・IEの基礎など担 当・電算機センター長)	 本間鶴千代教授 (オペレーション・リサーチ など担当・教育・研究委員長)	 小竿真一郎助手	 大岸文夫助手	 西山光昭助手
 宮井正弥講師(機械工学一般 など担当・図書委員)	 齋田 昇教授(映像システム 論など担当・紀要委員)	 吉村 浩教授(品質管理など 担当・材料試験センター長)	 佐藤勝行教育技術員	 佐藤勝行教育技術員	 加村隆志教育技術員	 小早川隆夫教育技術員

システム工学科

 竹内秀雄	 谷本善彦	 秋山正夫	 課長 松本義男	 部長 仲嶋正之(学内理事)	 正道寺 勉助手	 土井 誠講師 (数値計算・電算機概論など 担当・教務委員)
 京野和子	 福島真澄	 川面より子	 新井信男	 鈴木 正	 城山正則教育技術員	 鈴木敏正助手
 中村ヨシ(用務)	 中村光子(用務)	 山下きよ(用務)	 宮下善衛(警備)	 武井幸四郎(警備)	 小笠原洋子	 宮崎はる子 (後援会事務局)

事務局



材料試験センター

センター長(兼担)吉村浩 (システム工学科教授)



兼子正生教育技術員



竹内貞雄教育技術員



保健体育センター

センター長(兼担)小林勉 (教養科助教授)



(兼担)酒井誠 (教養科講師)



(兼担)城戸卓男 (教養科助手)



新任教員

齊藤 享教授(数学) 東京理科大学数学卒業。前東京学芸大学大学院教育学研究科教授。理学博士。

三上 繁太郎教授(数学) 東北帝国大学理学部数学科卒業。前都立工業高等学校教授。中島克典助手(体育) 日本体育大学体育学科卒業後、同大学専攻科修了。

(兼担)中島克典 (教養科助手)



(兼担)松本義男(庶務課長)



(兼担)鈴木昭正(学生課長)



浅野ミエ子保健婦



マイコン 応用実習室

(兼担)片山滋友 (電気実験センター)



(兼担)丹羽次郎 (電気工学科助手)



体育会

Table with 3 columns: クラブ名, 顧問, 学生責任者. Lists various sports clubs and their staff.

Table with 3 columns: ワンダーフォーゲル部, 川副富男助教授, 東 正隆(建4)

文化団体連合会

Table with 3 columns: クラブ名, 顧問, 学生責任者. Lists cultural clubs and their staff.



地域推進委員の活躍

後援会では、五十三年度以降... 地域推進委員の活躍について...

文学碑寄贈さる

三月二十日(土)午前十一時より、後援会長野島支部より... 文学碑寄贈の模様...



一、名刺がわりに年賀状... 支部のない地域では、各委員の苦勞により新たに委員を委嘱された挨拶状が送られた...



福島県支部設立総会から

55年度後援会総会の案内... 今年度後援会総会は、左記により開催されますが、重要議案も用意されていますので、より多くの委員の出席を期待します。

日本工業大学 天満宮崇敬会 について

本学の東門前に天満宮社殿がある。これは、昭和四十二年、この地に大学を設立するため校地を造成しているとき、出土した「天満宮」と刻まれた石祠をお祭りしている神社である。衆知の通り、天満宮は学問の神様、菅原道真公(八四五-九〇三)をお祭りするもので、広く人々の信仰をあつめていくが、学問の神様を祭る天満宮(側面に安政二年、一方に野口氏と刻まれている。野口氏は当時この地の庄屋)が、一時地中にうもれていたのが、時まさしく大学設立時に再び出現したことは、学問への深い因縁であり、瑞祥(すいしょう)である。大学内外の人々により社殿建立発起人会

Clean&Green 緑化計画進行中 学内の美化に協力を

が組織された結果、各方面より絶大な奉賛が寄せられ、昭和五十一年六月、めでたく社殿が建立され、遷座祭が行われたのである。その後、あらためて日本工業大学天満宮崇敬会(会長 川島武夫元後援会会長)が組織され現在に至っているが、毎年二月下旬の日曜日、学内外の人々によりにぎやかに例大祭が行われている。例大祭には学生の参加を大いに期待している。

太平洋の文化

— グアムの場合 —

一九六〇年にハワイ大学の協力を得て東西文化センターが設立された本年で、十年の年月が流れた。その名が示す通り東西の文化が交りつた問題意識を研究する。太平洋の中の研究と言ふことができる。ハワイ全体がアメリカにあって、文化的、経済的、人種構成の面で東西の文化の接点になっていることがその背景にあるのである。

東西文化センターには、文化問題研究所、食料問題研究所、人口問題研究所が置かれており、語学教育の面でも、多言語にわたる社会環境の要請に応じるためにいろいろな研究がなされている。私は十年前に東西文化センターにお世話になった訳であるが、どうもその頃よりアジア、太平洋地域の文化と言語に興味を持ち始めたようである。太平洋の青い海と白い砂、灼熱の太陽と風、そして椰子の葉。そこには原始的ではあるが民族のロマンが隠されているようにわれわれ現代人の心の故郷を見る思

いがする。太平洋には三つの文化圏があると言われ、その中でも最大な文化圏はポリネシア文化圏である。ハワイ諸島を中心に、マクドナルド、フィリピン、クック諸島、トケラウ諸島、サモア諸島、トンガ諸島、クック諸島、イースター諸島、ガンビア諸島、クリスマス諸島、地図を広げて見ただけでも面白い。ニュージーランドはポリネシア文化圏で一番大きな島になる。第二の文化圏はメラネシア文化圏。フィジー諸島、ロイヤルティ諸島、ニュー・アイルランド、ニュー・ブリットン、サンタ・クラッツ諸島、ソロモン諸島等がこの文化圏に入る。

さて私が今回訪れたグアムは、マイクロナシア文化圏にある。文化的にはグアムはメラネシア諸島に属し、他にキアロライン諸島、マーシャル諸島、ギルバート諸島、エリス諸島等がこの文化圏に入る。東南アジアよりフィリピン、ボルネオ、セレベ

スあたりを中心に移り住んで来た民族がチャモロ人と呼ばれ、現在ではグアム人と呼ばれている。グアムに定住している。ハワイのポリネシア人の骨格がかなり西洋人のそれに近いのとは違ってグアム人の骨格は、どうも東南アジア民族のそれに近いようである。

ただ昔、主食にしているタロと呼ばれる芋でねったものを食べた時、ココナツを利用して見られる食習慣で、広い太平洋の中で動物蛋白を魚は言うまでもなく、アタに求めている点も面白い現象である。マイクロナシアは、日付変更線より西の海域を指し、オセアニアで最も島の多い海域で、地帯構造の上からみると、小笠原・マリアナ海山列にあたる。またこの島列を含めたオセアニアの島列はすべて海底火山脈の上にある。その数は二〇〇〇以上になり、島部面積二二三三、人口一〇

研究室では⑥

木村研究室(数学)

抽象化が進めば進むほど、比較的少ない数の基本的な法則によって、自然のより包括的な対象の叙述が可能になる。世界を叙述するための命題そのものが簡単になり、かつその数が少なくなり、それによって叙述される対象が拡大になればなるほど命題そのものは抽象化する。そして抽象的かつ普遍的な比較的少数の命題の組を使うことによって、自然をいよいよ自由にコントロールすることができるようになる。ここに科学の抽象化の特徴がある。

廿世紀は通信と制御の時代といわれる。その通信と制御の時代を支えているのはまさに抽象化した科学の力である。科学が抽象化し、それによって叙述される対象が拡大になり、その広大な対象

をより自由にコントロールすることができるようになったからこそ通信と制御の時代が、いまここにあるとも言える。科学が我々の時代を神仏にかわって支配しているといっても言いすぎにならないほどに我々の生活は科学に多くのものを負っている。数学は科学のための言葉であったから当然のこと、数学も十九世紀後半から抽象化の傾向が強くなり廿世紀後半のいまの頂点にある。そして抽象性の強い廿世紀の数学の中でもまた特に抽象的性格の顕著なものが、十七番研究室の研究対象である代数学である。

十九世紀前半までは代数学といえは方程式を解くことと同義であった。古代エジプトのパピルス(B.C.二千年ころ)に一次方程式の記述がある。一次方程式で未知数の数をふやしていくと、連立一次方程式へと拡張する方向では、行列式、ベクトル、行列などの概念が生まれて、十九世紀後半に線形空間の概念にいきついた(大学で線形代数という名前の講義が行われるようになってから、またせいぜい十年なのだ)。また一次方程式の次数を増して、高次代数学式へ拡張する方向は、二次、三次方程式、四次方程式の解法をへて、五次方程式の問題にいたり、それを機縁として十九世紀初めに、群と体という概念を生み出した(大学の工学部ではこのような概念についての数学は講義されていない。それを学ぶためには理学部の数学科へ行かなければならぬ)。これこそ、方程式論を中心とする古典代数学から、代数学の構造を中心とする現代代数学への大転回のはじまりであった。そしてさらに高次連立方程式の研究から、代幾何学と

万人であり、その半数がグアムに集っており、中心地に相当するアガニアは、マイクロナシア唯一の近代的な都市で、太平洋の交通の中心になっている。しかも今日では、グアムはミッドウェー・ウェークを結ぶ軍事上の拠点になっている。

マイクロナシアの歴史は、紀元前一五〇〇年くらいに始まるといわれているが、十六世紀以前の歴史はいまだに謎である。一五二一年にマゼランの世界一周船がグアムを発見したが、マイクロナシアの歴史の始まりである。一五六五年にスペインはグアム島の領土権を布告。一八八五年にマイクロナシア東部のマーシャル諸島はドイツ領となつた。第一次大戦では日本が治されているが、文化的、経済的には英語圏の影響が強く、アジア人を起源に持つと思われるグアム人の将来が心配である。

(注 陽一講師)

たしてきたのと同じ役割を、数学そのものに対して果たしている、ということである。つまり代数学は言語としての性格を強くもっている。そのことが代数学の抽象的性格を顕著にしている。そして抽象的であればあるほど当然のこととして応用範囲が広がっている。

さて科学万能の時代にも色々困難な問題が出現し、はたして科学はこのままでよいのか、という疑問が投げかけられている。数学の世紀、廿世紀も後半残り少なくなってきた。抽象数学も一つの頂点に達している。代数学よこへ行く、しかし心配はいらない。新しい時代の新しい困難な問題のための新しい言語を開発するのが代数学なのだ。いつの時代になっても代数学者の仕事はなくなることはない。十七番研究室の研究内容については日本工業大学年次要覧を参照して下さい。

(木村哲三助教授)

第8回ヨーロッパ理工学

研修旅行を終えて

私も、行程二十三日間のヨーロッパ研修に旅立ったのは春まだ浅い二月二十五日のことである。イタリアを皮切りに、スイス・ドイツ・オランダ・フランス・イギリスなどの諸国を訪ね、西欧テクノロジ、そしてその基礎をなす文化あるいは風俗・習慣・自然などを、この目で見て、この心(からだ)で感じることになった。

ヨーロッパの各地では、古代遺跡が迫力をもって長い歴史を語りかけてくる。あちこちにみられる大寺院の荘厳な大伽藍。見るもの、聞くものが新鮮であり、旅なれない私にはとくに強烈な印象の連続であったといつてよい。今、私の頭の中は、はちきれんばかりの情報が、未整理のまま渦巻いている。したがって、限られた紙面に、要を得た報告をすることに大変困惑しているのが現状である。しかし、編集者の本稿に対する希望時期もある。若干の断片的感想と、今、私が読みたいと思っている本を紹介することによって、とりあえず研修旅行の帰国報告としたい。

自然科学、誕生の地はヨーロッパである。当然、その成立にはヨーロッパ文化のふと筋となつてくるギリシア思想やキリスト教の影響が考えられるはずである。しかし、両者の関係は故意に見落としてきたように思えてならない。たまたま、あの記事に目がとまった。村上陽一郎の「日本人と近代科学」についての書評である。日本人は昔から、和魂洋才をいって、外来文化の産物だけを、その思想的基盤から切りはなして輸入することを心がけてきた。このような即物的な受容で、果してほんとうに科学を学んだことになるとは、と彼は疑問を投げかけている。ぜひ、一読したい書物である。

第三は、立原正秋の「帰路」である。これは、西洋を題材にした作品である。書評によれば、一人の主人公がスペインを皮切りに、ギリシャ・イタリア・フランス・イギリスなどを遍歴し、ヨーロッパの退廃をかきわけ、その退廃のなかで骨抜きにされた日本人に、何人も出会う主人公は、彼らを冷ややかにながめながら、自分自身の帰路を発見する、というのがこの小説の大筋である。いわゆる、さめた目で、ヨーロッパを書いたユニークな作品といえよう。とかく、日本人は西欧にげん感され過ぎたきらいがある。私も、西欧文明のきらびやかさに足をすくわれ、頭の中がヒートしているのが現状である。こんな時、小説「帰路」は、私にとって恰好の書物といふべきかもしれない。

ところで、旅なれない、その上、不精者・不器用な私のことであるから、失敗談やエピソードにも事欠かない。

・単独でタクシーに乗ったのはよいが、英語がさっぱり分らない運転手とあって、困り果てたこと。

・ローマのホテルで、部屋のドアを閉めることは簡単だったが、開けることが出来ず四苦八苦。ホテル・ボーイに開けてもらい、その度ごとにチップ。そしてグラーチエ、グラーチエ。(Thank you, Thank you.)

・スイスの時計店。三百円以上上の高価なものばかり見せられ、ぎょっとした話し。恐らく、東洋の大金持ちに間違えられたか? あるレストランで、食事を終え席を離れる際に、隣のアメリカ人の足を踏んだようなので、「I'm sorry.」ところが、なんと巨大な犬の足を踏みつけたしまったのである……。

三月十七日、研修団一行は、無事に成田に帰着した。ある意味では長期にわたる強行軍であったが、事故ひとつなく、全員元気で、しかも仲良く、まことに快適な研修旅行であったように思える。これは、学生諸君のひとりひとりが自覚ある行動をとってくれたことに起因する。と同時に、不器用な私の手足と、この研修の成功につながったこととつけ加えねばならない。この紙面をかき、感謝する次第である。

(和田 敏一教授)



ヨーロッパの各地でみられるキリスト教の大寺院(ミラノにて)



チリひとつない、絵のようなスイスの村落



英・独・仏語も話す運転手、アノルド氏(イタリア人)

これからの行事予定

6月29日 東工学園創立記念日

6月30日 振替休日

7月11日 補講日

7月12日、22日 前期末試験

7月23日 補講日

7月23日、9月22日 夏季休暇

9月17日 前期末試験発表

9月24日 授業開始

9月24、25日 履修申告日

10月10日 体育祭

10月11日 休講

11月24日 振替休日

12月21、22日 補講日

12月21日、1月9日 冬季休暇

1月22日、2月3日 後期末試験

3月6日 後期成績発表

3月20日 卒業式

3・25 春うららら・意気揚々の旅立ち

三月三十一日付
卒業生名簿
〔建築学科〕

〔電気工学科〕



卒業証書授与式を終えて思い思いに歓談する卒業生たち(体育館前で)



お世話になりましたと胴上げ(祝宴場で)



恩師を囲んで乾杯(祝宴場で)

大学を代表して、心からお祝いを言います。四年間の努力が実って、諸君は今日の晴れの日を迎えることになったからです。四年間を一緒に暮らした諸君と別れることは寂しいことですが、人生において会うというものは別れるというものでありますから、心からお祝いを言って、喜んで諸君を送り出したいと思えます。どうか、まず第一に体に気をつけて、その元気を精いっぱい仕事にぶつけて下さい。私たちは諸君がそれぞれの職場で必ず立派な成績をあげてくれることを確信しています。そして仕事にも慣れてきたら、ぜひ一度元氣な顔を先生方に見せて下さい。われわれ教師のなにより楽しみは、かつて教えたことのある人達が訪ねてきてくれることです。これが私たちの生きがいであり、教師冥利(みより)というものなのです。秋には文化祭があります。また、あと七年たてば、大学



卒業生の父兄と談笑される浅田理事長(左)と三浦学長(中央)

第十回 卒業証書授与式

学長告辞 三浦勲郎

は二十周年を迎えることになり、二十周年にはおそろしく盛大な祝典が催されることになるでしょう。そんなとき、この広

い構内に卒業生で埋ったら、本当にうれいだろうと思えます。諸君に対して、大学の門はいつも広く開かれています。仕事

の上で分らないことがあつたら、先生方は喜んで相談に乗ってくださるでしょう。また資料などを調べる必要が出てきたら、遠慮なく図書館を利用して下さい。たとえ卒業しても、この大学はいつでも諸君のものなのです。また、そういう具体的なつながりが将来に残されているばかりでなく、たとえ遠く離れて生活することになっても、諸君とわれわれとのつながりは一生切れることはありません。諸君は一生この大学の卒業生であるし、この大学はいつまでも諸君の母校であることに変わりありません。その意味で、諸君はこの大学を背負っているようなつもりで、どうか立派な仕事をして下さい。また、あとに残る私達も、この大学を、諸君が母校として誇れるような、ますます立派な大学に育てていくことを、ここで諸君に約束しておきたいと思えます。

天元山荘へのいざない

日本工業大学セミナーハウス・天元山荘は、昭和四十八年、本学後援会から本学園に寄贈されたもので、ゼミナールやレクリエーションなどの利用に供するために建てられた。同山荘は山形県米沢市郊外にあり、すぐ近くに、奥羽三大高湯の一つ、白布高湯温泉や天元台スキー場がある。また、同山荘をベースに、警備朝日園立公園や蔵王園定公園などへの日帰りドライブが楽しめるし、健脚を誇る人には吾



天元山荘前景

天元山荘使用料金

	宿泊料 (1泊2食)	暖房料 (11月1日 4月30日)
学園学生・生徒	1,100円	300円
学園職員と家族 後援会員	1,200円	300円
同窓会員と家族	2,000円	300円
一般	2,500円	300円

学生団体扱いの場合は、上表使用料を100円割引く。
学生が同一目的のため50人以上で利用する場合は、50人を越えた人数に関して規定料金の半額とする。

後援会 文庫

特別図書(産業考古学関係)から抜粋
54年度購入分

- 書名
- 機械化の文化史
 - 江戸科学古典叢書(1~8)
 - 人間社会の形成
 - 中国科学技術史講演集(東と西の学者の工匠)(上・下)
 - 日本古代手工業史の研究
 - 日本技術論
 - 20世紀の技術(上・下)
 - 技術の歴史
 - 職人衆昔ばなし
 - 東京の地場産業
 - 戦国の光と影
 - あすの技術へのヒント
 - 技術と日本文化史
 - 東洋文庫131 天工開物
 - 技術の誕生
 - 技術と文明
 - 現代技術の再評価
 - 技術の社会史
 - 現代の職人
 - ものとの人間の文化史(3)からくり
 - 現代日本産業技術論
 - 現代科学技術革命論
 - 技術思想の先駆者たち
 - 現代日本の技術と技術論
 - テクノロジーの物語
 - 原始技術史入門
 - 日本人の互感
 - アジアの工業化と二次産品加工
 - 技術文化史(上・下)
 - 技術学概論
 - 技術の歴史(1~6)
 - 電気の歴史
 - 科学技術史概論
 - 日本土木史概説
 - 横浜フランス物語
 - 産業遺跡を歩く
 - 鑄造—技術の源流と歴史
 - 古美術品材料の科学
 - 技術と歴史
 - 工業化研究の歴史的方法
 - 日本の工業地帯
 - 火縄銃から黒船まで
 - 機械と哲学
 - 尖られた動力文化
 - 日本の工業立地政策
 - 科学は歴史を変える
 - 技術者
 - 工業地帯計画
- 著(編)者名
- S・ギンティオン
 - 青木 國夫 編
 - 今西 錦司
 - J・ニーダム
 - 浅香 年木
 - 黒岩 俊郎
 - M・ランツバーク 編
 - R・J・フォード
 - 斉藤 隆介
 - 板倉 勝高
 - 井塚 政義
 - 渡辺 茂
 - 吉田 光邦
 - 宋 應星 撰
 - H・ホッジス
 - ルイス・マンフォード
 - 向坂 隆
 - アーミティジ
 - 深沢 武雄
 - 立川 昭二
 - 森谷 正規
 - エス・ヴェ・シユハルジン
 - 飯田 賢一
 - 中村 静治
 - 青木 昭夫
 - 岩城 正夫
 - 毎日新聞社 編
 - 逸見 謙三
 - T・K・デリー
 - 本多 修郎
 - チャールズ・シンガー
 - 高木 純一
 - 山崎 俊夫
 - 小川 博三
 - 富川 仁
 - 中川 浩一
 - 石野 健三
 - 鎌谷 親善
 - オットー・フッシュ
 - 山本 正雄
 - 奥村 正二
 - P・M・シュル
 - 平田 寛
 - 佐藤 元重
 - 松前 重義
 - 森川 英正
 - 小川 元